

# IPBESグローバルアセスメントからのメッセージと 生物多様性ポスト愛知目標に向けた展望

自然資源・生態系サービス領域    リサーチマネージャー  
高橋康夫

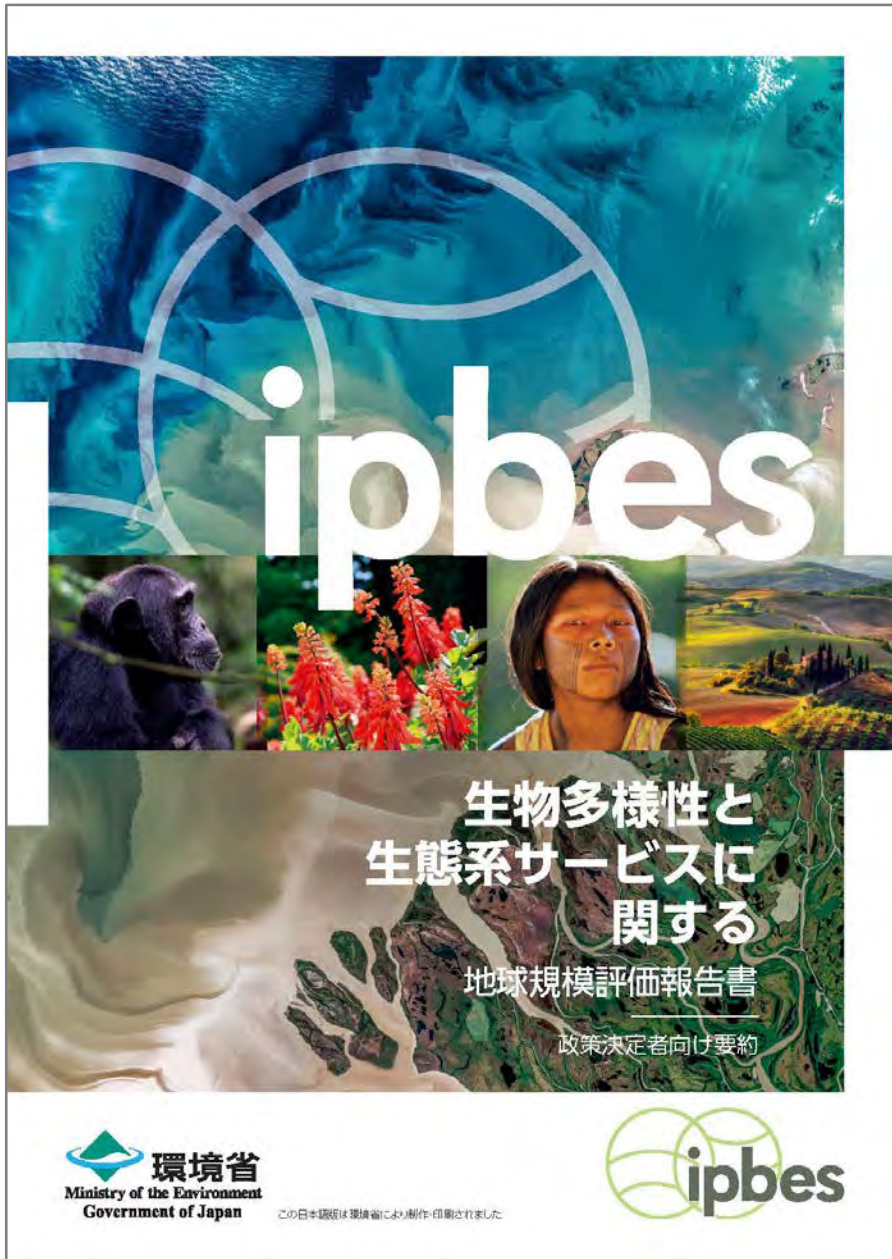
# ポイント

1. 自然は人類の生存やSDGs達成に欠かせない基盤であり、この基盤が急速に失われている
2. 生物多様性と気候変動は不可分の課題
3. 新型コロナウイルスの感染拡大から人と自然との関わり方を問い直す
4. 生物多様性条約のポスト愛知目標には自然との共生に向けた具体的な目標と実施メカニズムの設定が期待されている



**1. 自然は人類の生存やSDGs達成に  
欠かせない基盤であり、  
この基盤が急速に失われている。**

—IPBESグローバルアセスメントの要点—



## 人は自然に頼っている

**20億人** エネルギー源を木質燃料に依存

**40億人** 自然由来の薬を利用

**70%** 自然由来か自然界から着想を得て合成されたがん治療薬

**75%** 動物による花粉媒介が必要な食糧作物

**60%** 生態系による人為起源の大気中炭素の吸収量

**調節機能**：大気・水の浄化、土壌形成、自然災害リスクの軽減

**無形の恵み**：インスピレーション、学習、アイデンティティ形成

## 自然はSDGs達成の基盤

**直接**の貢献：水と公衆衛生（SDG6）、気候変動対策（13）、海の生態系（14）、陸上の生態系（15）

**基盤**として間接的に貢献：貧困撲滅（SDG1）、食料（2）、健康（3）、都市・居住（11）

# 自然が急速に失われている

- 過去50年間で農業生産と木材生産は増加
- 漁業資源、調節機能、無形の恵みは一律減少
- 推定100万種の絶滅危機
- 作物や家畜の地域品種、野生近縁種が減少
- 人類の将来の選択肢の喪失

## その直接・間接の要因

**陸上：**土地利用（油ヤシ農園や放牧など）

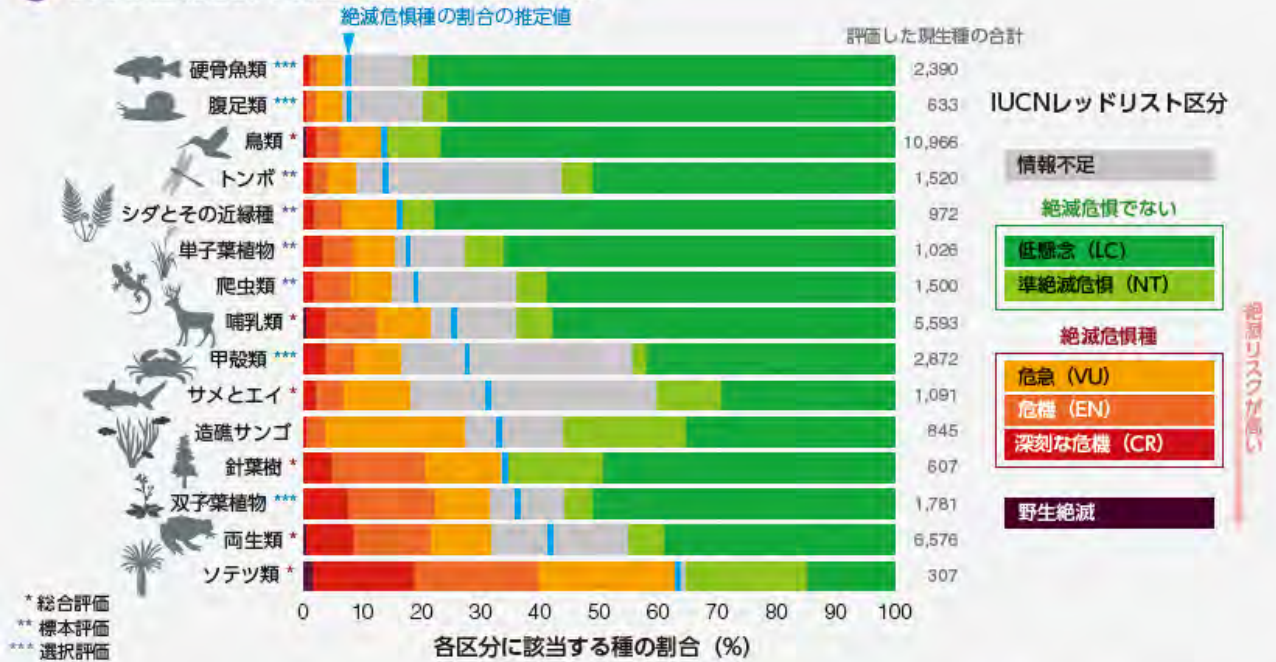
> 直接採取 > 気候変動 > 汚染 > 外来種

**海洋：**漁業資源の乱獲 > 海域利用 > 気候変動

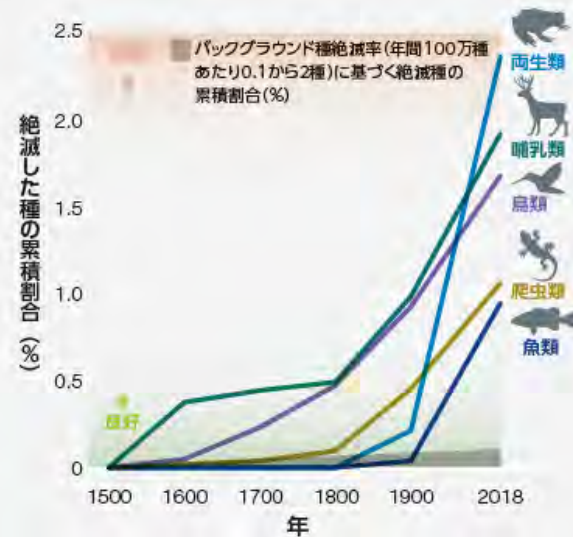
> 汚染 > 外来種

**間接要因：**大量消費、国際貿易による消費者の「目隠し」、タックスヘイブンを含むガバナンス問題など、グローバル経済の構造的なもの

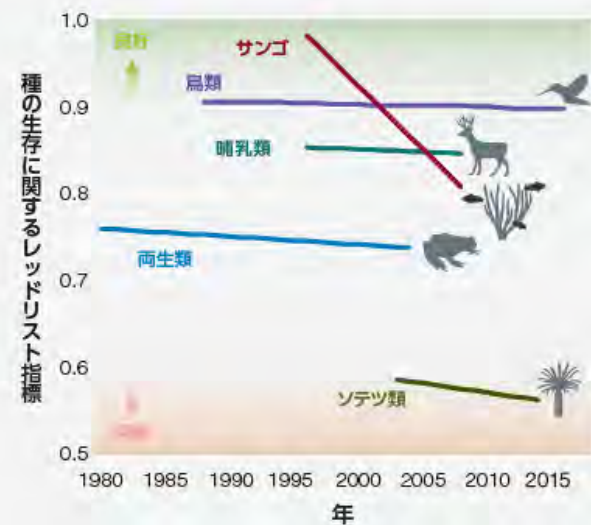
**A 異なる生物種群の現在の世界的な絶滅リスク**



**B 1500年以降の絶滅**



**C 1980年以降の生存種の減少 (レッドリスト指標)**



# 社会変容（トランスフォーマティブ・チェンジ）の要請

特に介入点(レバレッジ・ポイント)で適用される、統合的、順応的、情報に基づく、包摂的なガバナンスアプローチ (スマートな政策の組み合わせを含む)

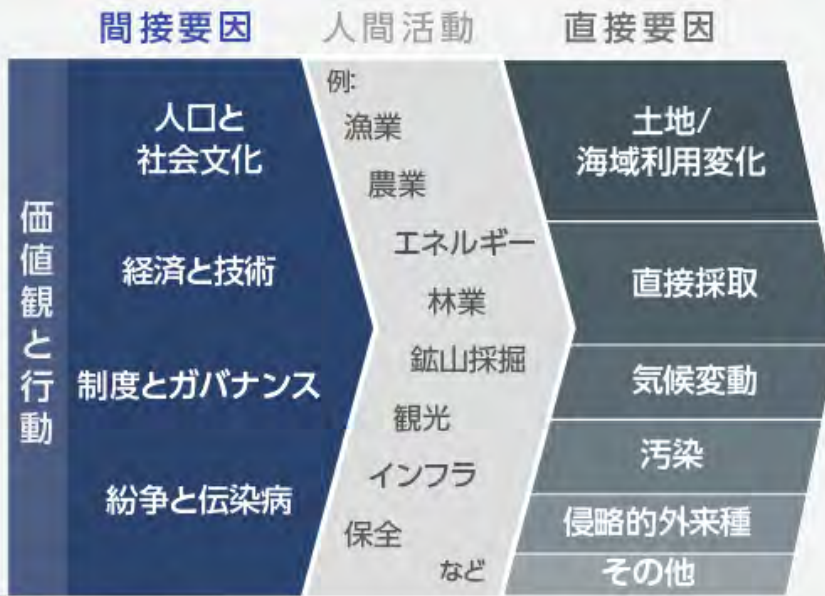
## 複数主体によるガバナンスの介入(レバー)



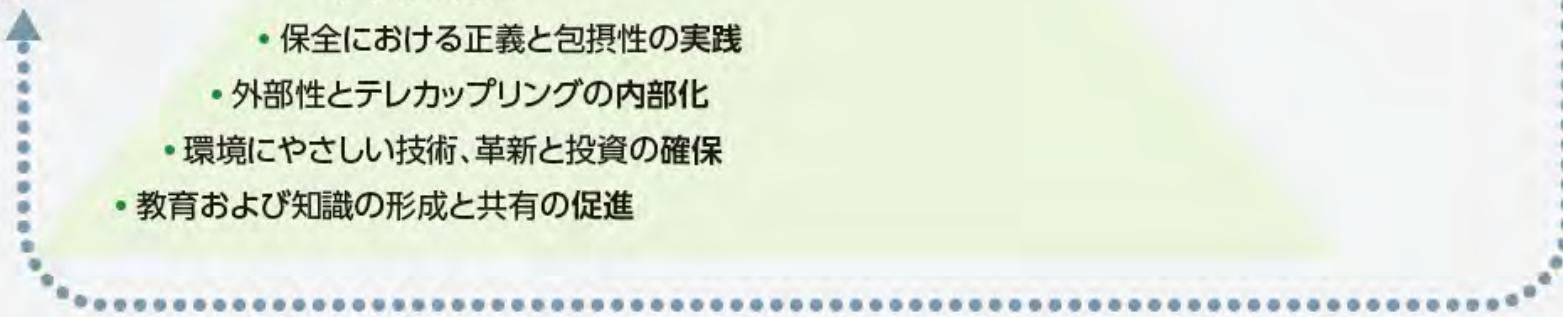
- インセンティブと能力強化
- 部門横断的な協力
- 先制行動
- 強靭性(レジリエンス)と不確実性を考慮した意思決定
- 環境法とその実施


## 介入点(レバレッジ・ポイント)

- 豊かな暮らしについての多様な観念(ビジョン)の受容
- 消費と廃棄の総量の削減
- 価値観と行動の解放・拡大
- 不平等の是正
- 保全における正義と包摂性の実践
- 外部性とテレカップリングの内部化
- 環境にやさしい技術、革新と投資の確保
- 教育および知識の形成と共有の促進



反復学習の  
ループ





## 2. 生物多様性と気候変動は不可分の課題



## 自然の調節機能

- 炭素吸収：人為排出の60%
- 自然の機能を高める緩和策（Nature-based solutions）により2°C目標達成に追加で必要な吸収量の37%  
※バイオ燃料生産の大規模展開は生物多様性や食料や水の供給を脅かすことがあり要注意
- 生態系の防災・減災機能と多面的、長期的な効果



## 気候変動による生物多様性への影響

- 既に多くの陸上哺乳類や鳥類の絶滅危惧種に悪影響、個体群の縮小や局所絶滅も
- 今後数10年でさらに悪化、乾燥地域の生産性低下や漁業資源減少も
- サンゴ礁は1.5°C上昇で70-90%減、2°C上昇で99%減の予測
- 他の直接要因の影響を増幅





## IPCC×IPBES合同の技術レポート

### 提案されている内容

- 気候変動⇔生物多様性の相互影響の将来予測
- 気候変動対策⇒生物多様性への影響
- 生物多様性保全⇒温室効果ガス排出への影響
- 気候変動と生物多様性の将来変化の直接・間接の要因の評価
- 気候変動と生物多様性に関する政策やガバナンス構造のシナジー・トレードオフと効果の評価
- 鍵になる科学的不確実性

### スケジュール（大幅に遅延）

- IPCC×IPBES合同ワークショップ（今年5月予定）
- 技術レポート草稿作成と査読（6～8月）
- CBD/COP15とUNFCCC/COP26にInfo-docとして提出



### 3. 新型コロナウイルスの感染拡大から 人と自然との関わりを問い直す



## 自然はほぼ全ての感染症の起源

- SARS-CoV-2 (今回) : キクガシラコウモリ、マレーセンザンコウ
- MERS (2012年) : ヒトコブラクダ
- SARS-CoV (2002-2004年) : キクガシラコウモリ、ジャコウネコ
- 動物媒介の感染症は全感染症の約17%、年間約70万人が死亡

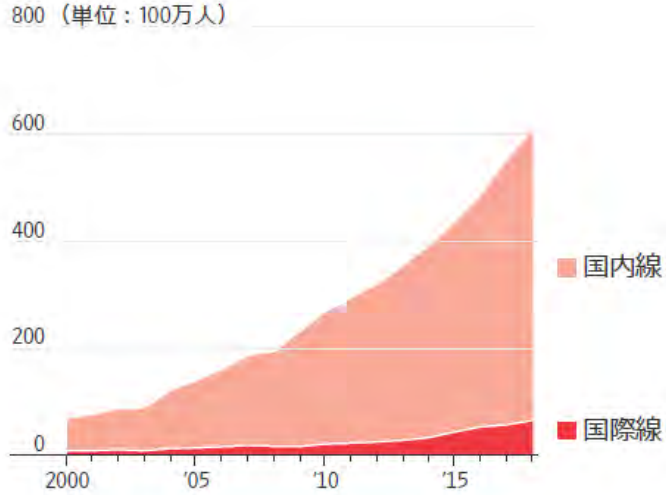


*開墾や生息地の分断、抗生物質の過剰投与といった人間活動によって、野生動物、家畜、植物や人の新たな感染症が増える可能性がある*

- IPBESグローバルアセスメントでは重要な知識ギャップと認識
- 今後のIPBESテーマ別アセスメント  
「生物多様性と食料・水・健康ネクサス」で詳しく扱われる可能性  
～2021年のIPBES第8回総会でスコーピング文書採択予定

# 全世界への急速な拡散の背景

中国の航空旅客輸送



中国観光客に人気の旅行先 (2018年)



出所: 中国国家统计局 (旅客輸送)、UNWTO (旅行先)

武漢からの国際直行便 (2019年12月~20年1月)



財と人の長距離移動の急速な発達が生むが、  
経済全体の利益を生むが、  
同時に経済的、環境的な負担を他国に移転、  
自然に概して負の影響を与える

➤ グローバル化の浸透で脆弱になる世界

図の出典 The Wall Street Journalインフォグラフィクス  
[https://www.wsj.com/graphics/how-the-coronavirus-spread-jp/?mod=article\\_inline&mod=ig\\_threatofcoronavirusjp](https://www.wsj.com/graphics/how-the-coronavirus-spread-jp/?mod=article_inline&mod=ig_threatofcoronavirusjp)

#### 4. 生物多様性条約のポスト愛知目標には 自然との共生に向けた具体的な目標と 実施メカニズムの設定が 期待されている



## ポスト2020枠組の重要な背景

- IPBESアセスメントが科学的根拠を提供
- 愛知目標の振り返り
- SDGs (2015年)
- 気候変動対策との連携

プロセス	2019		2020	
<b>①過去の振り返り・現状把握・将来予測</b> ・ IPBESグローバルアセスメント ・ 生物多様性概況第5版 (GB05)	●			○
<b>②枠組・概念・実現可能性の検討</b> ・ 地域会合 ・ 公開ワーキンググループ (OEWG) 1 ・ 公開ワーキンググループ (OEWG) 2 ・ 作業部会SBSTTA23/SBI2 ・ 作業部会SBSTTA24/SBI3 ・ テーマ別専門家会合	●	●	●	●
<b>③内部・外部協議</b> ・ IUCN総会 ・ 公開ワーキンググループ (OEWG) 3 ・ 国連総会 (UN Nature Summit)			○	○
<b>④文書化と合意形成</b> ・ CBD-COP15				○

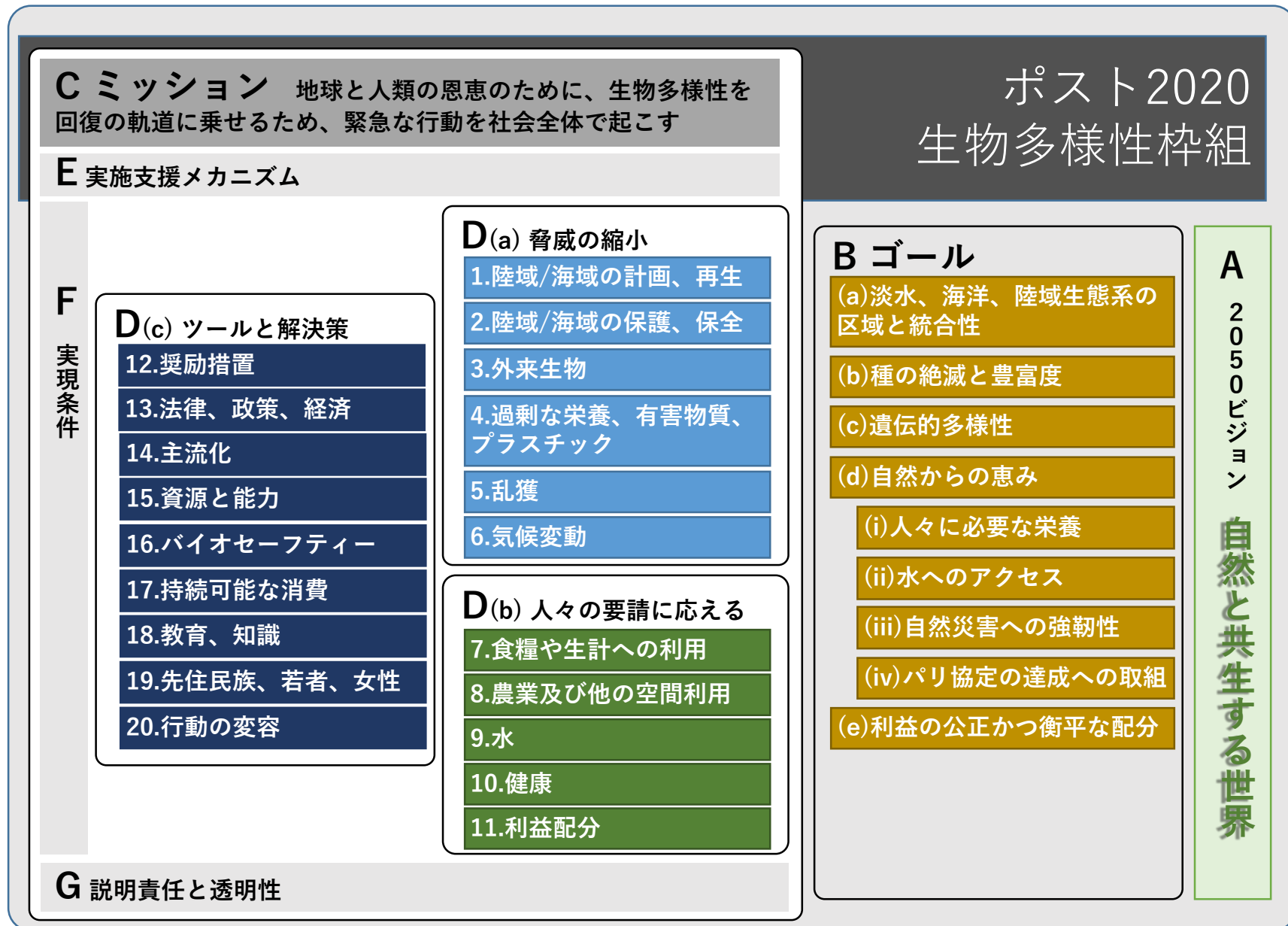
●完了した日程 ○未消化の日程、多くは新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期、多くは未定

## 枠組(ゼロドラフト)の構成

- A. 2050年ビジョン
- B. 2030年中期目標・2050年目標
- C. 2030年ミッション
- D. 2030年行動目標
  - (a) 脅威の縮小
  - (b) 人々の要請に応える
  - (c) ツールと解決策
- E. 実施支援メカニズム ほか

## 日本のポジション

- 自然との共生～ SATOYAMAイニシアティブ、ランドスケープ・アプローチ
- 生態系を基盤とした気候変動対策と防災・減災
- 経済活動への主流化





## CBD COP15成果で注目するポイント

- 間接要因に働きかけて社会変容（トランスフォーメティブ・チェンジ）に向けた行動を惹起する、具体的な目標と実施メカニズムの設定
- 気候変動対策との連携
- 感染症リスクへの対応



ご清聴ありがとうございました。

詳しくはこちらのブリーフィングノートもご覧ください  
<https://www.iges.or.jp/jp/pub/briefing-note-biodiversity/ja>

自然資源・生態系サービス領域 リサーチマネージャー

**高橋康夫**

**IGES** Institute for Global Environmental Strategies  
公益財団法人 地球環境戦略研究機関